【森の里小学校】説明会における質問・意見等の概要

1　参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和４年 10 月 23 日（日）	森の里小学校体育館	10 時～	44 人
		14 時～	23 人
		17 時～	17 人
		合計	84 人

2　意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	18 件

3　質問・意見の概要

○…質問　●…意見・要望　△…説明会後、意見提出用紙等で提出された質問等

→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会後、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただき、市の回答は記載していません。

【質問】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

○　説明資料 12 ページについて、小規模な学校について、メリット・課題が記載されており、非常に難しい課題であると認識している。市として、どのようにしていきたいのかを前面に押し出す必要があると思う。13 ページの適正規模の範囲の考え方の根拠が記載されているが、アンケート結果などが記載されており、市として無難な範囲を選択しているように感じられる。厚木市として、この範囲を設定している狙いや目的を教えてほしい。

→　市では、教育振興基本計画で掲げる「子どもたちの『生きる力』の育成」を図るために、この取組を進めています。具体的には、様々な人間関係の中で社会的な適応能力を身に付けることや、そのために学習環境の多様性を確保することが重要であることを前提に、審議会での御意見やアンケート調査結果を踏まえ、適正規模の範囲を定めているものです。

○　適正規模の取組と、小中一貫校の取組を分けて考えていくという説明だっ

たが、なぜ分ける必要があるのか。

→　適正規模・適正配置の取組と、小中一貫校の取組を分けて考えるとお話したのは、小中一貫教育をただ進めるだけでは、今回の適正規模・適正配置の取組が目指すところに繋がらないと考えているためです。ただ、本日も小中一貫校の取組について多くの御意見をいただきましたので、今回の取組と合わせて並行して取り組んでいく必要があるものと認識しています。

○　説明資料 34 ページの最後にある、将来にわたって子どもたちの教育環境をより良くするためにというのはどういうものなのか。市で構想を持っているのか。

→　市の基本的な教育の考え方については、『市教育振興基本計画』でお示ししています。本計画では「未来を担う人づくり」を基本理念としています。適正規模・適正配置は、様々な人間関係の中で社会的な適応能力を身に付けることが重要であると考え、そのために学習教育の多様性を確保していくことが取組のねらいとなります。

○　行政としてこの取組を実施するに当たり、どこに重点をおいているのか。

→　教育行政が担う役割として、子どもたちの学習環境を整えることが第一だと考えております。子どもたちが、学校教育の中で、たくましく育ってこそ、将来的に厚木市の発展につながるものと考えておりますので、それを念頭に置いて取組を進めています。

○　１学級じゃなく、２学級になればよいのか。クラス替えができたとして半数しか入れ替えができないのに意味はあると考えているのか。

→　教育委員会としては、クラス替えができることは教育的な効果があるものと認識しています。

○　説明資料 31 ページに記載されている意見交換会は１回を予定しているのか。

→　現在、各学校１回の開催を予定しています。ただ、意見交換会において、様々な御意見をいただく中で、１回では十分意見交換が進まない場合などについては、改めて意見交換会を開催することはあるかと考えています。

○　説明資料 31 ページに記載のあるアンケート調査は、対象校にだけ実施するものなのか。皆さんの意見を聞くと、教育の方向性、考え方等についても評価の対象にしないといけないと思うが、これについては規模の大きな学校

の意見も含めて総合的に見たうえで、厚木市としての方向性として示してもらわないと納得できない。また、方向性を決めるタイミングはいつになるのか。今は全然決まっていないという認識でよいのか。

→　市としては、基本的な教育の考え方というものを基本方針で定めていますので、考え方についてはすでに定まっているものと考えています。ただ、小中一貫校については、今進めている検討を踏まえながら検討する必要があると考えています。また、アンケートについては現状では対象校のみで実施させていただき、それぞれの立場からの一人一人のお声を聞かせていただきたいと考えております。そこでいただいたアンケート結果を踏まえて、市の考え方を検討した上で方策案を提示させていただきます。その後、市の方策案に対して御意見をいただきたいと考えています。

○　方策について、スケジュールありきではないということだったが、令和９年３月まではこれまでどおり通学できるというような認識でよいのか。それとも前後することはあるのか。

→　スケジュールについては、基本的に、最短の期間をお示ししているものです。そのため、皆様の御意見を伺いながら進める中で、後ろ倒しになってしまう可能性もあります。また、地域の皆様から早急に実施すべきであるという御意見をいただいた場合は、前倒しになることも考えられます。実施時期については、急に来年度とか、再来年度から実施するということがないよう、十分な準備期間を設けて、実施していきたいと考えています。

○　会議で出た意見等をまとめて公開するのはいつ頃を予定しているのか。

→　本説明会は 10 月 10 日から始めて、11 月 27 日まで、計 11 回、各学校で開催させていただきます。御意見等については、最後の会議が終わった後、２週間ぐらいを目途に、市ホームページで学校別に意見の概要等を情報提供させていただくことを考えています。

○　説明会の結果についてパソコンやスマホが扱えず、ホームページを見ることができない人もいると思うが、紙媒体での公開は難しいのか。

→　紙での公開については検討させてください。

○　説明会の結果を公開する際には、各意見に対する市の考え方を示してもらわないと、次の議論に移ることができないため、できる限り考え方は示してもらいたい。

→　今回の説明会は、市の適正規模・適正配置の方針の内容や各地域・学校の

現状を御案内するためのものであり、この説明会やアンケートの結果を踏まえて、今後、市の考え方をまとめる予定です。来年度、市の考え方をまとめた上で意見交換会を開催予定ですので、その際には御意見に対する市の考え方をお示しさせていただきます。今回については、説明会で出された皆様の御質問や御意見の概要を情報提供させていただく予定です。

○　説明資料 12 ページのメリット・デメリットのところについて、教育委員会の理想と問題みたいなところが混在しているように思える。適正規模・適正配置というのは将来的にやらなければいけないことだと思うが、実施するまでの間、現状の課題等に対して何か行動していることはあるか。

→　例えば、部活動については地域移行の取組などが動き始めているところです。また、学校ごとに問題が発生し、人手が必要となるときには、その都度フォローしていくような形をとっています。

（教育環境）

○　Ｑ＆Ａ４ページに、小中学校の一貫教育について検討中とあるが、どういう組織で検討して、どこまで進んでいるのか教えてほしい。

→　学校教育部が中心となって検討を進めておりますが、適正規模・適正配置の取組もございますので、学校教育部だけではなくて、今後は教育総務部も一緒に検討を進めてまいります。まずは、内容について詳細に検討を進めるため、附属機関等は設置せず、庁内で検討を進めているところです。

○　小規模校のメリットとして、教員の目が行き届きやすく、きめ細かな教育指導を受けやすい、デメリットとして、児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定しやすいとあるが、どちらが優先されるものなのか。

→　これはどちらも言えることであり、どちらを優先するというものではないと考えております。ただ、基本方針でお示ししている適正な規模の範囲内であれば、それほどデメリットは大きくならず、メリットを享受しやすいものと考えております。

○　まず、教職員の方々の負荷が非常に重いという印象をもった。これまで負担軽減に向けてどのような取組をしていたのか伺いたい。森の里小・中学校の児童・生徒たちが、大規模な学校と比べて、学力的に劣っているといったことや、引きこもりや不登校の割合が高いといった客観的事実はあるのか。また、その場合は実際に何か課題は顕在化しているのか。また、これらの取組を行うことで客観的な数値として効果が表れるものなのか。

→　教職員の負担軽減の取組については、先ほどの説明でも少し触れさせていただきましたが、学校に依頼のあった調査・照会等の案件の精選、出退勤管理、夜間等の留守番電話の設置等を行っているほか、清掃や草刈りなどの人出が足りないといった要望に対して人的支援の実施などを行っていますので、こうした取組は今後も継続していきます。なお、現時点では適正規模・適正配置の取組により、業務負担がどの程度減少できるかの定量的な見込み数値は持ち合わせておりません。

　また、適正規模の考え方について、具体的に森の里小・中学校において、御意見をいただいたような、客観的な数値の把握はしておりません。また、現時点において、具体的な課題が顕在化しているものでもありません。

　学校規模については、保護者や教職員の皆様にアンケートを実施し、その結果を踏まえて、学校規模の偏りが大きくなると、課題が大きくなりやすいものと認識し、取組を進めているものです。

○　教職員の業務の分担について、中学校の先生が小学校の業務を一部負担したり、小学校の先生が逆に中学校の業務を一部負担したりするなど、お互いの業務を分担し合うような取組は現在あるのか。また、将来的にそういうことは可能か。

→　今のところは小学校と中学校の先生が、事務を分担するというようなことは実施しておりません。また、今後についても事務の分担は難しいものと認識しております。ただ、イベントの際に、会場の貸し借りをするというような取組は現在でも行っています。

○　例えば、中学校の数学の先生が小学校の算数の教科を分担して担当するなど、教科について分担するということはしていないのか。

→　今のところそのような取組はありません。英語の授業が小学校で始まったこともあり、小中連携した授業を実施することもありますので、授業の仕方を、小学校の先生が、中学校の先生に聞くといった相談レベルであれば、あるかと思いますが、代わりに授業を実施するといった取組はございません。

（通学関係）

○　もし仮に森の里小学校がなくなって、玉川小学校に通うことになった場合、２丁目のところの道を整備すると通いやすくなると思うが、そういうことは検討するのか。

→　既存の道路を活用して通学できるかという御質問かと思います。仮に、森の里地区から玉川小学校に通う場合については、まず安全な通学ができるか

どうかを検討する必要があります。検討に当たっては、適正規模と合わせて検討していく必要があると考えています。その中で、距離的、時間的に難しいとなれば、先ほど挙げたような通学負担軽減策の検討を進めます。考え方といたしましては、先ほどお話のあった新たな通学路の調整も含め検討していく必要があるものと考えています。

○　説明資料 14 ページに、望ましい通学距離、時間の上限として、小学生３キロ 45 分、中学生４キロ 60 分と書かれているが、厚木市内で実際にこれに近い状況の学校は何校ぐらいあるのか。

→　何校というデータは持っておりませんが、令和２年度に実施したアンケート調査の中では、その範囲を超えていると回答した児童・生徒保護者はいらっしゃいませんでした。ただ、毎年度、各学校の通学路を把握する中では、範囲の上限を超えている児童・生徒がいらっしゃることも認識しています。

（その他）

○　森の里地区に特色・魅力を感じて、選んだ方は結構いると思う。何度か引っ越しをした中で、森の里は子育て環境がとても整っている。そういった特色を打ち出して、人口増につなげるような取組はしないのか。

→　市としては、人口減少に対し、『市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定し、人口の自然増及び社会増につながる施策を実施しているところです。これからも、人口増につながるよう取組を継続していきますが、国が示している推計では、2060 年には人口が 9,300 万人程度まで減少する見込みとなっています。実際に人口の社会変動も減少していく見込みです。長期的な人口維持という目標達成に向けた取組を継続する一方、現実も踏まえながら、実際にどのような方策を実施していくべきか今後も検討していきたいと考えています。

○　仮に玉川小学校と森の里小学校が統合した場合、玉川小学校が実施している小規模特認校制度は維持されるのか。また、小規模特認校制度について玉川小学校の保護者の声を把握しているか。

→　統合した場合に小規模特認校制度を継続するかについては、現時点では定まった考え方はございません。今後検討を進める中で、もし統廃合に向けた検討を進める場合については、継続の要否について保護者の皆様の御意見をお伺いしながら検討してまいります。

　また、小規模特認校制度の取組について、制度を利用した保護者に対してアンケート調査を実施していますが、全保護者を対象としたアンケートは、

過去の実施の有無を含めて把握できておりません。

○　児童と生徒の違いを教えてほしい。
→　小学生のことを児童と呼び、中学生のことを生徒と呼んでいます。

○　令和３年度において、少人数学級にしたとき教職員の人数が不足すると示してあるが、実際のところ 10 年後 20 年後になったとき、何人くらいの教職員が必要になるのか。児童数が減れば必要な教職員の数も減るのではないか。
→　教職員は、基本的には学級数に合わせて、国の基準に基づいて、県が人数を決め配置するものです。そのため、児童・生徒数が減ったから、教職員の人数に余剰が出るということはありません。また、市独自での教職員の採用については、費用面の問題だけでなく、全国的に教職員のなり手が不足している中で必要人数を採用できるのかという課題もあり、現状としては難しいものと認識しています。

○　Ｑ＆Ａ３ページのところに、少人数学級を実現するために教職員数が 107 人増えると書いてあるが、全体で何人いて、107 人が増えるのか、また、増員すべき人材は必ず教職免許を有する人でなくてはいけないのか。
→　お示しさせていただいた人数は、単純化するため、1 学級に対し、担任 1 人という考え方で計算した数値となっています。現在市では、509 学級ございますので、その場合 509 人の教職員として記載しています。現在、１学級当たりの人数は、小学校は 35 人、中学校は 40 人ですが、小・中学校全てで１学級当たり 30 人とした場合、107 学級増えるということで考えておりますので、教職免許を有する先生が、107 人増えるという計算をしているものです。

○　少人数学級にした場合、森の里地区とか玉川地区で実際に教職員が何人増えるかという計算はしていないのか。また、市の財政に掛かってくる教職員の給料はどれくらいなのか。
→　地区に限定して教職員が何人必要になるかという計算はしていません。
　また、107 人の教職員を市独自で配置した場合、県の教職員の平均給与をかけ合わせると、大体年間当たり５億円程度必要になるものと見込まれます。

○　児童・生徒数の推計・推移は、具体的にどういう根拠で出しているのか。

→　令和 12 年度の推計の出し方については、住民基本台帳で、対象となる小学校の通学区域で生まれたお子様の人数を把握し、その方が１歳ずつ成長されていくようなイメージで推計しています。その中で想定される転出入については過去の数値を基に計算をしています。そのため、９年後の数値については比較的確実性が高い数値になっています。2040 年の推計値については、『市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン』の推計値を用いて教育委員会で算出しています。この推計値は、取組により出生率の上昇や、転入者の増加などの施策効果が出ることを見込んだ人数となっています。

○　人口ビジョンが策定されたのは平成 28 年でよいか。
→　そのとおりです。人口ビジョンでは 2060 年代までの人口推計を出していますので、人口移動率はそれを参照しています。ただ、平成 28 年度時点の見込みと現在では既に人数に差異が出ていますので、今現在の児童数に将来の人口移動率を掛けて値を算出ししています。

【意見】
（取組の考え方・進め方・スケジュール）
●　森の里中学校は生徒数が少ないが、進学校に進学する生徒が多いと認識している。現状で穏やかに生徒が過ごしている中で、統合によって大きな学校に行くとデメリットが大きいと感じる。もし統合を検討するなら客観的なデータを示していただきたい。また、大規模な学校に馴染むこともできず、小規模校を好む生徒もいるとも思うので、そういった生徒がいないのか調べてもらいたい。

●　こういう集まりに参加される方は、自分の意見を物申したいとか、批判的な意見も多くなってしまうのかなと思うが、適正規模の捉え方が個々で違う中で、こういう話を、ネガティブに捉えず、待っていましたという人もいるのかなと思う。仮に統廃合をするとなったときには、森の里小学校のいいところである、活発なＰＴＡ活動、そして子どもに対する優しい教育というものが生き続けるように取り組んでいただきたい。また、通学の長距離化・長時間化に伴う子どもたちの負担についてもどのような対策をしていくのか今後説明いただきたい。

●昨年度から、地域学校協働活動のモデル地区となっている森の里でこんな話が出るのは驚きである。子どもたちに対しては森の里をふるさとと感じてもらえるような教育、森の里を愛する心を育てるような教育を盛んに実施して

いる。お金が無いから、統廃合をするのではなく、お金が無い中で通学区域を再編成せずとも、全ての小学校を残すことに成功した先進事例として示せるような政策を進めてほしい。

● 教職員の手が足りないなら、市で増やせばいい。５億程度であればうまく予算を組めば可能なはずである。森の里は地域での教育が浸透し、子どもたちと地域のつながりが強くなっており、人数が減ったから単純に統廃合することはやめてほしい。このままにしてほしいが、せめて小中一貫等の施策により地域に学校を残してほしい。

● 説明資料７ページを見ていると、財政のことが第一にあるような印象を受ける。お金が掛かるということはわかるが、教育第一に考えてほしい。

● 今日は説明会という話だったが、いろいろな意見が出されており、意見交換会に類するようなものだと認識している。意見交換会は、市民と行政の合意づくりにおいて非常に大事なキャッチボールであり、会議で出た意見をまとめて公開して、その上でさらに意見を積み上げていくというプロセスを経ることで初めて効果が上がるものである。市民参加条例でも、意見交換会は会議の内容を公開して、その上で市の考え方も示していくということを定めている。本説明会についても、内容の公開、それに対する教育委員会の考え方を示していってもらいたい。

● 自分の子どもが今年小学校に入学したが、遊歩道等も整備されていて安全に通学できる森の里が気に入っているので、小規模特認校制度を運用することで森の里小学校を残し、子どもを卒業させてほしい。

（教育環境）

● 小中一貫校の設置を考えてほしい。小中一貫校だったら中１ギャップとかもなくなる。小学生と中学生の子どもがいるがギャップがすごく激しかったので、とても体も疲れていた。そうしたギャップを無くすためにも検討してほしい。

● 全体のメリットを考えたときに小中一貫校という案が一つの解になると思う。この問題を解決していく上では子どもたちのことを考えることはもちろん、住民から保護者、行政まで関わる人全員が良かったと思える策を講じることが重要である。小中一貫の方策であれば、通学はこれまでどおり安全

で、災害の心配もなく、森の里の不動産価値も担保される、小・中学校の機能をどちらかに移転できるなど各方面にメリットがある。このようにみんながハッピーになるような施策につなげてほしい。

● 意見が出ているとおり、森の里地区は小・中・高・大まであるとても良い環境であるため、小中一貫校の検討を進めてもらい、その環境を維持してほしい。

● 統廃合されて、通学区域が変わると、現状は徒歩で通学できている子どもたちが公共バスとかスクールバスを使わないと通学が難しくなるし、安全性も損なわれる。そこに対して余分な予算をつけるのであれば、小中一貫での学校運営を重点的に検討してほしい。

● この資料には通学路が長距離化する児童をどうするのか、地域づくりをどうするのかが示されておらず、統廃合ありきの資料づくりとしか思えない。適正規模の範囲外でも教育効果が上がっていることを認めた上で、小中一貫校も念頭に入れ資料作りをしていただきたい。

● 説明資料 12 ページに記載されている小規模な学校のメリット・デメリットについて、メリットの「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」、「異学年間の教育・交流活動の機会が多くなりやすい」については、学級規模よりも教職員の多忙化や配置人数の方が影響を与えているのではないか。今、ギガスクールが始まって、オンラインでいろいろな教育活動ができるようなっており、そうしたことを利用して、学校を越えた横のつながりを構築することもできると思う。皆さんは学校と地域との関係性も心配していると思うので、こうしたことを活用することで、小規模校の課題が解決できればよいのではないか。

● 私の家族は、居住地の移動により、市内の三つの小学校への通学を経験している。また、一時期海外の学校に通学し、県外の小学校にも通学した経験もあるが、厚木市の学校はどの学校も規模に関係なく、素晴らしい教育をしているという認識である。そうしたことを踏まえ、人数が少ないから統合するという視点ではなく、教職員の数を増やすことなどで、対応していくという考え方があっても良いのではないか。

● １学級が悪い、多様性が持てないという考えは捨ててほしい。１学級でも

１学級の良さをいかした学校運営は可能である。統廃合ではなく、小中一貫校など他の方法を真剣に考えてほしい。

● 森の里地区は小学校から大学まであり、研究所も立地する学園研究都市という長所がある。また、ここまで地域の方が協力し合っている地区もなかなか他にはなく、他地区のお手本になっているという話も聞く。人数が減ったから統廃合とするのではなく、そういった長所をいかした学校運営を考えてもらいたい。

● 統廃合を含めた検討を進めるとのことだが、それぞれの課題について統廃合以外で対応していけるものである。施設の老朽化については、森の里小・中学校の耐用年数まで 40 年以上あり、また、小中併設型の形をとれば、一校分の改修が不要になる。教職員の負担軽減については、民間委託の活用や地域の方々の協力があれば、教職員でなくてもできるような部分について負担軽減できる。小規模校では、多様な考えに触れることができないというデメリットについては、似たような環境で育った同じ学年の子どもたちについては価値観が大差なく、それよりは地域の様々な年代の方と触れる方がより効果的である。教科負担については、学校間の兼任というやり方もある。人数的に難しいところもあるかもしれないが、玉川や小鮎といったところと兼任という形をとれば、適切な配置が可能ではないか。部活動については、地域移行の話が進んでいて、そもそも学校でやらなくなるのであれば、課題にはならない。これらの課題に対しては、小・中学校を地域に残し、地域との関わりを持つことがとても効果的である。他地区に行ってしまうとなかなか地域の方が関わるのは難しくなるため、地域に小・中学校を残していただきたい。

● 育った環境がその人のアイデンティティの形成に大きく関わるものであり、その地域の子どもはその地域で育てるべきである。

● 学校の適正規模・適正配置に取り組む理由として教職員の多忙化や施設の老朽化を挙げているが、教職員の多忙化というのは、児童・生徒と向き合う時間よりも、学校側への提出書類が増えていることなどが理由ではないか。また、施設の老朽化については、令和 36 年度までの建物全体の更新維持管理費として 1,849 億円を見込んでいて、充当できる財源が 1,427 億円で、422 億円の財源が不足するとあるが、まだ使える市庁舎を建て替えるために数百億の予算を組むのであれば、それより先に子どもたちの教育環境を整え

るのが筋ではないか。

（地域づくり・地域コミュニティ）

● Ｑ＆Ａ５ページに記載がある、児童・生徒数が少なくならないように取り組むのが先ではないかという意見について、私も同じ考えである。小・中学校が統廃合されて森の里地区からなくなると、子育て世代がこの地区を選ぶということが少なくなると思う。私が、森の里地区に引っ越してきたのは、小・中学校が徒歩圏内にあり、教育の環境が素晴らしい地域だという考えがあったからである。もし、中学校がないとか小学校まで 30 分 40 分掛かるということであればそもそも候補から外していた。正直、小・中学校が統廃合されれば、引っ越しも考えるぐらい重大なことである。統廃合により、地域に小・中学校がなくなると、多分今後子育て世代で引っ越してくる方は減り、より一層、若い世代への世代交代が行われなくなると思う。そうなると、森の里自体がゴーストタウン化し、高齢者だけになり、この先がなくなるので、子育て世代を取り込むような施策を打ち出し、児童・生徒数が増えるように取り組んでいただきたい。

● 私自身が森の里出身で、森の里小学校の卒業生であるが、在籍していた 20～30 年前は、６年生も４学級あるなど、活気のある地域で、放課後もいたるところで子どもが遊んでいたが、今となっては、子どもが大きく減り、寂しいまちになってしまった。高齢化を迎えるに当たって、小・中学校が持つ地域の拠点としての機能がとても大切であるため、子どものためという視点だけではなく、森の里地域をどのようにデザインしていくかという視点で是非考えていただきたい。

（その他）

● 地区の高齢化、過疎化を招いたのは市の政策によるものである。交通アクセスの悪さから、住民や、進出してきた大学も出て行ってしまった。こういう現状を招いてしまったことをよく考え、今後の政策を検討してほしい。

● 子育て世帯が増えてきている実感がある。コロナ禍においてテレワークが進み、価値観が変わってきている中で、都市部集中というより、環境の良いところに移動する人が増えているように思う。森の里東地区で企業誘致が進んでいたり、地区でも世代交代が進んでいたり、若い人が増えてくる可能性もあるため、そうしたことを鑑みて人口推計について考えてもらいたい。

● 今後の学校教育のトレンドとして、これまでは教科書だけであったが、今後、タブレット端末を活用した教育があるのかなと思うが、これが今回の取組とどのように関係していくのかという辺りも考えていきたいと感じた。

【意見提出用紙による意見等】
（取組の考え方・進め方・スケジュール）

△ 保護者の方々は、新しい環境へ子どもを送り出すことや大きな変化にとても不安があるのだと思う。不安を取り除いて、前向きな政策が実施できるよう協力したい。

△ 今回の説明会で会場内での意見を聴くと、森の里地域での再整備が避けられない場合には、森の里小学校と森の里中学校を統合とする意見が多数あった。このことから、この意見に対する賛同がどの程度あるかが判断できるアンケート調査を行うよう求める。

△ 課題が何かを明確に示してほしい。起点は児童・生徒数の減少であるが、何が課題かが読み取れなかった。現状で森の里小・中学校で何か問題が出ているのか。学級数等が国や県の規定を外れてしまうのか。その他何が課題なのか。資料には設備の維持・管理費や教職員の残業時間の記載もあり、何が課題かが分からなかった。各課題を混ぜてしまっているので、本質が見えなくなっている。課題ごとに要因と対応を検討してほしい。

厚木市として何を目指したいのかを明確にしてほしい。前述した課題の明確化が先決であるが、もし小・中学校の規模の適正化が必要であれば、厚木市としては何のメリットを重要視し、どのくらいの小・中学校の規模を考えているか。一方デメリットは何で、どういう対応をするか。補えないデメリットは何か、これらを明確にした上でアンケートや意見を参考にアジャストしていかないと発散、もしくは中途半端な対応で終わってしまう。

どの規模でもメリット・デメリットがあるので、厚木市の考えを前面に打ち出さないと意見がまとまらないはず。資料には厚木市の考えが全くなく、責任を取りたくないという思いが前面に出てしまっているため、真摯に対応いただきたい。

非常に難しい課題なので、厚木市の考えをベースに市民の意見を取り入れ、一貫性をもった施策に繋げたい。

△ 森の里地区の学校として小規模特認校は実施できるのか。

厚木市全体の教育方針だけでなく、森の里地区、他の地区の特性をいかすべきではないか。

△　森の里小学校は、少人数であるが、手厚く先生方に見ていただけていると感じている。統廃合だけではなく、森の里小学校、森の里中学校を小規模特認校化する等も検討してほしい。統廃合が実施されると、通学距離が大幅に増加し、子どもへの負担が増加することにも慎重に議論を進めていただきたい。

通学路の安全面においても、現状の森の里小学校・森の里中学校の存続を希望している。

△　人数が増加している中学校から、毎日バスで森の里中学校に通学できないか。小規模学校への希望者や、自然に触れたい等の生徒が他校にいるかもしれない。

△　将来的に、玉川・森の里地区を合わせた「小中一体型施設」の新設を希望する。立地場所としては、「若宮橋バス停～榎田バス停までの間の畑や雑木林」辺りが、玉川・森の里地区の両方にとって利便性があってよいと考える。通学距離が長い児童や生徒は、公共交通機関を使用することもできる。新施設の完成までの間は、玉川・森の里地区の小学校、中学校をそれぞれ合併して、玉川あるいは森の里のどちらかの旧校舎を使用するものとする。スクールバスがあるとありがたい。現世代だけでなく、次世代まで対応できるような構想であるとよい。森の里・玉川地区の高齢化を少しでも解消できたらと思う。

（教育環境）

△　小中一貫校も考えてほしい。初の試みで良いと思う。

人数が多い中学校からスクールバス等で、森の里小学校・森の里中学校へ通学することについてのアンケートを実施できないか。

不登校児童が増えてたくさんいると聞いている。その中には小規模学校を好む児童がいると思う。その子たちへの社会コミュニティ活動としても森の里小学校・森の里中学校は良いと思う。この声は多いと思うので回答が欲しい。いきなり統合は避けてほしい。

△　森の里地区に、森の里小学校・森の里中学校施設共用学校（必要に応じて小中一貫校に段階的に変更）を希望する。理由は以下の通り。

1　地域の要であるため

小・中学校がなくなれば、子育て世帯の新たな流入は難しく地域として資産

価値は下がり、森の里地区の崩壊を招く。学校は防災拠点など地域の中心でもある。森の里は大学、企業、住居区が融合した実験的で創造的な開発だったと思う。是非その価値を維持してもらいたい。

２　森の里は子育て環境において魅力的であるため

そのために移り住んだという声、自身が育った環境に魅力を感じ子育て期に戻ってくる人も多い。小中一体型施設／一貫教育にするためには、特色が必要という説明があったが、この環境、そして少人数であることそのものが特色ではないか。小規模特認校とすることで、他の学区からの生徒の流入は充分見込める。森の里４・５丁目バス通り東側の企業誘致地区の住居への見直しなども含め、地域としての魅力の再開発も一案かと思う

３　少人数は本当に悪なのでしょうか。

過疎地では、すでに規模の小さい学校があります。小規模校の懸念点は理解できます。私自身も不安を感じたこともあるが、一長一短あると思われる。小規模校の懸念点を挙げることはできるが、それが「顕著に」他の規模の学校に比べて「問題として」出ているのか、今一度数字なり客観的な検証を検討いただきたい。

４　教職員の負担

小規模校であることによる教職員の負担も理解できる。しかし、それは小規模だから顕著に、他の規模の学校より負担感が大きいのか検証いただきたい。

昨今問題になっている通り、どの学校においても教職員の負担は大きいのではないか。外部の力を借りる、業務の効率化など、規模に関係なく、まず改善すべき工夫があるのではないか。小中一体型施設／一貫教育の小規模校として歩むに当たっては保護者や居住者も積極的に補助として参加すべきだと思う。

中学の話になるが、部活動については従来のレベルでの熱量が必要なのかいささか疑問である。中学生の心身の成長を促す効果は否定しないが、クラブレベルで健やかに楽しむレベルに抑えてもいいのではないか。もちろんスポーツに打ち込みたい子どももいるだろうが、土日や放課後にそこまでエネルギーを割く必要があるのか。教職員においても、必ず専門がいるわけではないし、レベルを抑える、または外部に委託するなど現代の生徒や保護者の意志も踏まえて検討できるのではないか。

５　財政的な問題

「どの規模の学校であっても維持にかかる経費は同じである」との説明があったが、まさにこの問題と４の先生の問題が今回の根幹なのではないか。財政には限りがあるので理解するが、その点と子どもへの影響は明確に区別して検証すべき。いずれにせよ、50 年先も考えるのであれば、説明にあるように子どもが劇的に増えることはなく、大規模校も大規模でない状態が予想される。

無理なく実現できる小規模校のモデルを今から探っていくべきだと思う。やはり学校は地域の要である。森の里に限らず、どの地域においてもそうである。コンパクトに、公民館など地域施設と融合した在り方を探っていきたい。施設で言えば、例えばプールや体育館などは、公共施設、民間施設を借りる／共用するということも考えられる。厚木市は小中一貫に取り組むことを明示している。まさに、今ここで実現していくことではないのか。

△　児童数・生徒数の減少における学校の統合については、スクールバスを充実させたり、親の車での送り迎えは必須になると思った。子どもが安全に通学できる環境はとても重要だと思う。森の里に移住した理由は小・中学校が近くにあり子どもの通学の利便性・安全性が高いということが大きい。小・中学校がなくなってしまうと（または、どちらかが欠けても）この地域を選んで住む若い世代はいなくなり、地域自体が廃れると思う。

　新しい試みになると思うが、小・中を一貫にして教職員の負担をできるだけ軽くするよう、地域の民間ボランティアが手伝える事をして支えるなどの事をすると良いかと思う。ボランティアの方は仕事をリタイアした高齢者の方などの手も借りると、その人たちにとっても地域と関わりが広がるような気がする。「地域ぐるみで参加してつくる学校」の実現は難しいのか。

△　厚木市内外の中からこの地域を選んで引っ越してきた経緯がある。いろいろな方からここはいい地域だと聞いて越してきているので、今でもとても満足している。森の里小学校・森の里中学校ばかりではないが、このような対象校を是非見に来てほしい。数字上だけで当事者がないがしろになっている感が拭えない。

（通学関係）

△　修繕費のこと、先生方の負担を考えると、統廃合は仕方がないことだと思う。通学方法は公共交通機関、スクールバス、自転車のどれでも選択可にするなど、柔軟に対応してほしい。通学時間増が一番の負担・心配に感じている。

　小中一貫校についても、是非進めてもらいたい。

　厚木市内の小・中学校は、地区の縛りなしに、どこでも通学可の選択の検討もしてほしい（小規模特認校にこだわらず）。

　部活動の指導者の外注は大賛成。全ての中学校で導入してほしい。

△　説明資料 16 ページの適正配置の方策（通学負担軽減策）について「自転車通学を認める」とあるが、森の里地区は街路樹からの落ち葉が多く、特に雨の翌

日などは晴れていても路上が滑りやすくなっており自転車は転倒しやすい状態である。また、森の里から玉川の間は坂が多く、上り坂は体力的にも困難で全く通学負担軽減にはならない。自転車の転倒の話もしばしば聞くし、非常に危険なため、自転車通学は選択肢から除外してもらいたい。

（地域づくり・地域コミュニティ）

△　小・中学校いずれかが無くなるということは森の里が無くなることを意味する。市の平均的な教育ではなく、個性のある教育ができる方向で考えてほしい。

△　子育て支援を重視する厚木市の施策に合わせて、森の里の地の利をいかして、ただ少子化の中で統廃合を決めるのではなく、どういう地域にするか（高齢化も含めて）を一緒に提示してほしい。

△　統廃合は反対。その理由と厚木市への期待については次のとおり

■森の里の魅力

１.住環境：教育水準が高い人が集まっている閑静な住宅街で安心感がある

２.教育環境：幼稚園～中学校が徒歩圏内に揃っており、学校の評判も良い

森の里は、利便性よりも環境を重視した人が選ぶ町だと思われる。テレワークの普及によって利便性よりも環境重視という子育て世代が増えており、森の里地区にとって追い風となっている状況のはず

■統廃合の影響

小・中学校の統廃合は、森の里の価値を大きく下げる施策となるはず。

統廃合によって下記１～３のことが起こり得ると考える。

１.教育環境の悪化

幼稚園～中学校が地域内で完結しないということは、教育環境の良さという森の里の大きな魅力を失う。他地域の学校に通うということは、学校の評判や通学時間に不安が生じる。

２.子育て世代離れ

良い教育環境が失われることで、子育て世代にとっての魅力が著しく低下する。子育て世代の転入が減少するどころか、転出する人もいるはず。

３.ゴーストタウン化

子育て世代にとっての魅力低下は、児童・生徒どころか住民減少を加速させると思われる。

■厚木市への期待

厚木市に期待することは下記の３つ

１.地域性に合った基準の制定

住民の志向が違う地域を、同じ基準で判断することは避けていただきたい。

利便性を重視する住民にとって、教育環境の重要性は高くないかもしれないが、森の里のような教育環境を重視する住民にとって、小・中学校が地域からなくなることは、その地域を選んだ意義を失うほどの大きな問題である。

２．魅力ある教育環境の維持

それでも統廃合を進めなければならない場合は、小学校と中学校を統合するなどして、地域内に幼稚園～中学校まで揃う街を維持してほしい。少人数制の質の高い小中一貫校が実現できれば、それは大きな魅力となる。

３.建設的な施策の検討

テレワークの普及に伴って、利便性よりも環境を重視する人が増えていることは間違いない。今後、再開発による地域の活性化に加えて、森の里ＩＣによる利便性の向上など、子育て世代にとって魅力向上となる計画が予定されていると思う。統廃合によって魅力を下げることは、それらに逆行することになるはず。推計に合わせた統廃合の検討ではなく、将来性を含めた森の里の魅力をアピールするなど、推計を減少から増加へ転じさせるような建設的な施策を打ってほしい。

△　森の里の地域力の高さや環境の良さを無駄にしないよう考えていただきたい。

（その他）

△　玉川小学校と統合する場合、現在、玉川小学校の特色である学区外の児童の受け入れは継続していくのか。その場合、この森の里地区を選んで住んでいる理由の一つである地域の人の性質などがなくなってしまう。学区外の受け入れは、森の里と玉川を統合する場合には考えていただきたい。是非、現在小規模で学区外の児童の受入れをしている教員や玉川地区に住んでいる実際の声を意見交換会までに教えてほしい。もちろんメリットもあると思うが、デメリットも知りたい。

森の里の方から、穏やかに過ごしたいという意見があった。私も自分の子どもが安全に穏やかに過ごしてほしい。学区外、希望すればどなたでも入れるということになると少し不安。学区外の方の声というより、元から住んでいる学区外の受け入れをした方たちの声を知りたい。今現在、小規模の良さが実際に通われている方たちの意見から感じられた。メリットもデメリットもあると理解できた。しかし、今現在データで小規模だから学力が低いなどは出ていなかったので、学力テストのデータなども教えていただけると参考になる。